

ヘアリーベッチ跡水稻・大豆の技術支援

大津・南部農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

大津市では平成20年度より環境こだわり米として緑肥作物ヘアリーベッチ(以下「HV」)を活用した水稻の無化学肥料栽培に取り組まれています。HV跡栽培の米は「はなふじ米」という名称でJAレーク大津の直売所で販売され好評を得ています。このような状況のなか、特に堂、新免、牧の各集落営農は取組意欲が高いことから、安定生産技術の確立について支援しました。

また、同市仰木地区では県内初のHV跡大豆栽培に取り組まれたので、次年度の技術確立に向けて検討を行いました。

【普及活動の成果】



ヘアリーベッチ研修会

(1)ヘアリーベッチ跡水稻栽培

HVが肥料となるため、鋤き込み量が重要なポイントになります。そこで、適切な鋤き込み量の目安を示し、HVの生育量を生産者自らが測定して鋤き込む時期を決定できるよう支援を行いました。また展示ほを設け、技術的な課題を検討しました。

その結果、慣行と同等の収量を確保できたほ場もありましたが、HVの肥効が切れて減収となったケースも多くありました。

追肥をすることなく、完全にHVだけで水稻栽培をするためには、各集落のほ場条件

にあったHV鋤き込み量や水稻の栽培管理方法の目安を作成する必要があると考えられました。

収穫後には、今年度の結果を踏まえた研修会を開催し、意見交換を行いました。各集落が独自にHV跡水稻栽培の目安を作れるよう今後も継続的に支援していきます。

(2)ヘアリーベッチ跡大豆栽培

HV跡大豆栽培についても展示ほを設置し、慣行のレンゲ跡栽培と比較しました。

HV跡大豆の収量は、慣行のレンゲ跡の1.2倍となり増収しました。しかし、鋤込みにかかなりの労力を要したため、次年度は鋤込みの省力化を中心に検討を行う予定です。



ヘアリーベッチ鋤込み(大豆)